

質問区分	観光・産業	議員名	やなぎさわ まい 柳澤真衣 議員
発言順(通し番号)	NO : 4	所管課・室名	農政課

質問事項	安曇野市の米の状況について
具体的な内容 (質問取り事項)	米の消費量を上げるための工夫や、農業生産者の確保と、作業支援の充実について

【市長答弁】

やなぎさわ
柳澤議員の質問にお答えします。

安曇野市の米の生産拡大のための取組についてご提案をいただきました。

安曇野市の米の生産につきましては、豊富な水や日照量、昼夜の温度差が大きいといった良好な気象条件や、生産者の栽培技術向上への努力により、一等米比率・反収とも常に全国トップクラスであります。

市内では、およそ 3,000ha に米が作付されております。これは、県内の米の生産量の約 10 分の 1 を占めており、県内トップです。

柳澤議員が心配をしているように、日本人が一年間に食べる米の量は、平成 26 年の国の調査では一人当たり 55 kg となっており、ピークであった昭和 37 年の 118kg と比較して半分にまで減少しております。

米の消費量が減って、米が余ってしまうと価格が下がってしまい、農家の収入にも影響が出てくるばかりではなく、この安曇野の豊かな田園風景が少なくなることや、地下水の保全にも影響が出ることが予想されます。

しかし、安曇野市では次のような取り組みをしながら、米の生産だけではなく、農業全体の振興を図ってきております。

米の生産量を増やす一つの取り組みとして「日本酒」の海外への販路拡大が挙げられます。

これは、お隣の「松川村」「池田町」、そして地元の酒造会社とも連携し、安曇野産の酒米（さかまい）を使った日本酒の製造により、「台湾や香港」などの東南アジアを中心に海外輸出をすることです。

また、国の方針により、国内で足りない「家畜飼料」として「飼料用米」の生産にも取り組んでおります。

昨年では市内の約 100ha（市内の水田の 30 分の 1）で約 600 t の生産がありました。

このように、私たちが食べる「ごはん」以外の加工品に変えることで需要を増やそうと取り組みがされています。

次に、農業を手伝うことで、将来の農業後継者となりえる新たな取り組みも昨年から実施してきております。

それは、都市部に住む中学生を修学旅行で、市内の農家が受け入れる、いわゆる「農家民泊」事業です。

今年は、東京や大阪などから 13 中学校、1,155 人の生徒が安曇野市を訪れ、農業体験や農家と一緒に食事を作って食べるなど、強い印象を受けて都会に帰っております。

この取り組みが、将来、安曇野市への移住・定住に繋がることと、柳沢議員が考える、農家の手伝いから、農業経営に至るまでの仕組みができることは、今後、大いに期待しているところです。

【中学生議会 市長答弁様式1】 観光・産業グループ2 / 3

質問区分	観光・産業	議員名	たけだしょうご 竹田匠吾議員
発言順(通し番号)	NO : 5	所管課・室名	農政課

質問事項	松くい虫被害への対策と現状について
具体的な内容 (質問取り事項)	土砂崩れを防ぐ対策・イベントを多く開催

【市長答弁】

続きまして、^{たけだ}竹田議員の質問にお答えします。

松くい虫被害への対策と現状についてであります。

ご承知のとおり安曇野市は平成 12 年度に松くい虫の被害が確認されて以来、被害が増加傾向にあり、平成 25 年度には、8,817 立方メートルという過去最高の被害量となりました。

市といたしましても「松くい虫被害防止対策方針」に沿って取り組んでおりますが、被害は減少傾向にはならない状況にあります。

議員さんご質問のとおり、森林の果たす機能は人々の住環境にとって土砂災害防止や水源涵養など大切な役割を担っております。

そのような中で、明科川西地区と言われる押野山周辺において地域の皆さんとの合意形成により「更新伐事業」を実施し、松くい虫被害木を含むアカマツ全てを伐採し、広葉樹林化することにより、災害に強い健全な里山にすべく取り組んでいるところであります。

また、「環境基本計画」の具体的な行動計画として、平成 26 年度に「里山再生計画」を策定し、市民の皆さんに里山へ関心をもってもらおう「さとぷろ。」という愛称で、イベントなど具体的な活動を行っています。

いずれにしましても、森林は適正な間伐や森林整備がなされないと大木にはならず、しっかり根を張ることが出来ません。

森林に関心を持ち親しんでいただくためにも、この「さとぷろ。」の活動や、身近な里山として愛されている「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」など、里山に触れあうイベントなどがありますので、是非議員さんにも参加していただき、多くの皆さんとともに、将来につながる里山活動に取り組んでいただければ幸いです。

詳細は農林部長より答弁いたします。

質問区分	観光・産業	議員名	あさわだいじろう 浅輪大二郎議員
発言順(通し番号)	NO : 6	所管課・室名	観光交流促進課

質問事項	安曇野の観光について
具体的な内容 (質問取り事項)	冬や秋のよさを活かした企画・冬の安曇野の風景投稿

【市長答弁】

続きまして、^{あさわ}浅輪議員の質問にお答えします。

安曇野市のすばらしさは、北アルプスの美しい景観と裾野に広がる豊かな田園風景、わさび田湧水群に象徴される豊富な水資源、そして、どこか懐かしい日本の原風景ともいべき農家の佇まいなどがおりなす、四季折々の美しい景観であります。

また、先人が築きあげてきた豊かな伝統的文化や神社・仏閣をはじめ芸術的な文化施設の多さも、本市の魅力であります。

この安曇野の豊かな景観は「安曇野ブランドを形成する基本」であり、訪れる人々の心を和ませ、豊かな旅を満喫していただいていると考えています。

冬に訪れる観光客を増やす取組みが大切とのご提案は、本市の観光誘客の大切な課題であると考えております。

議員提案にもあります温泉につきましては、先月に新しくオープンいたしました「安曇野しゃくなげの湯」をはじめ多くの温泉施設が市内に点在しております。

この豊富で良質な温泉を活用し、冬期のイベントなども今後検

討してまいりたいと考えております。

本市が保有する様々な地域資源を最大限に活用し、四季を通して来訪者の市内での滞在と周遊の満足度を向上させていく取り組みが重要であると考えています。

質問区分	観光・産業	議員名	やなぎさわ まい 柳澤真衣 議員
発言順(通し番号)	NO : 4	所管課・室名	農政課

質問事項	安曇野市の米の状況について
具体的な内容 (質問取り事項)	米の消費量を上げるための工夫や、農業生産者の確保と、作業支援の充実について

【農林部長答弁】

先ほど柳澤議員から、米粉パンの普及による、米消費拡大についてご提案をいただきました。

現在、市内の店舗や農産物直売所でも、米粉を使用したパンやお菓子、ラーメンなども、数多く販売されるようになってきました。

技術の進歩により、米を他の売れる製品に加工することで、今後の需要が増えるのではないかと期待しているところであります。

次に、米づくりなどを学ぶ場を設けることで、新規就農者や農業後継者の確保につながるのではないかとのご提案をいただきました。

農業を学ぶ機会は、市内6つの農業塾などで、受講でき、初心者の方でも学ぶことができます。

市では、広報誌へ塾生の募集記事の掲載や活動費用の一部を支援させていただいており、昨年は286名の受講生が学び、その後、自分で小規模の畑を借りて実践する受講生も多くおります。

小規模の畑を借りることも市は支援させていただいており、市が運営する「市民農園」：(非農家の皆さんが小規模ではあるが農業に親しめる農場)は、現在273区画あり、来年JAあづみが運営する「あづみっこ農園」の84区画を合わせると357区画に増えます。

これは、市民からの需要に応じたもので「農に親しむ」そして「農業を学ぶ」人が年々増え、また、「農」へ携わりたいという思いと期待の高まりであるといつて良いと思います。

小規模ではありますが、自分で畑を耕して、ある程度の栽培技術を得た方は、「手の空いているときに他の農家を手伝ったり」、「自分が育てた農産物を販売したいと思う」方も多くおります。

市民農園を利用されている方は、将来、生産規模を増やすなど、農業に携わる機会が増えると考えております。

次に、農業後継者育成支援についてですが、新規就農者への支援制度である、国の給付金（年間 150 万円）青年就農給付金を受け、経営の安定化を図る方や、市からの親元就農支援金 20 万円により親の農業を継ぐきっかけとなった方もおります。

安曇野市では、就農相談窓口も設けており、昨年度は 10 名の方が新規に就農されました。

最後に、ハローワークのような場を設けてはとの提案でございます。

現在、農政課では農家で働きたい人と、働き手を必要としている農家を結び付けるような新しい支援システムの構築に向けて検討しております。

安曇野市を含め全国的に農家は減少傾向ですが、このシステムをきっかけに、農業に携わる方が大勢出てくることを期待したいと思います。

【中学生議会 部長答弁様式2】 観光・産業グループ2 / 3

質問区分	観光・産業	議員名	たけだしょうご 竹田匠吾議員
発言順(通し番号)	NO : 5	所管課・室名	農政課

質問事項	松くい虫被害への対策と現状について
具体的な内容 (質問取り事項)	土砂崩れを防ぐ対策・イベントを多く開催

【農林部長答弁】

続きまして^{たけだ}竹田議員ご質問の松くい虫被害への対策と現状についてでございます。

先ほど市長がお答えしたとおり、安曇野市は松くい虫被害が増加しております。

平成27年度実績では8,048 m³の内、明科地域が全体の57%にあたる4,587 m³、豊科地域が28.4%にあたる2,286 m³、穂高地域が11.9%にあたる956 m³、堀金・三郷地域が2.7%で209 m³となっております。

これらのことから判るとおり、東山が激害化しており伐倒駆除対応が追い付かない状況であります。

このような中、平成24年度より明科押野山周辺において、市・地権者・地区実施委員会が一体となって、松枯れによる倒木被害の恐れと山肌を露出することで大雨による土砂災害の恐れを検討した上で、松くい虫被害木を含むアカマツを伐採することを地域で合意し「更新伐事業」に取り組むこととなりました。現在約100haが実施済であります。

議員提案の耐久性シートにより、一定の期間、木の代わりをすることで、土砂崩れを起こさない方法については、伐採後の大雨による土砂の流出を防ぐ為には大変有効な方法かと思えます。

議員が心配されていたように、伐採時には山肌が露出していましたが、

現在は萌芽（ほうが）並びに実生（みしょう）による天然更新により適正に樹木が成長し、緑豊かな里山に再生し、伐採による土砂災害の恐れは低くなっていると思われます。

萌芽とは広葉樹の切り株から芽生え成長していくもので、実生とは樹木から落ちた種子が芽生えることで、双方とも天然更新と言われています。

その地域に合った有用な広葉樹が生えることで、本来の森林環境や役割が果たせると思っております。

その他、有人へりにより明科岩州公園周辺 5 h a の薬剤空中散布・無人へりにより豊科大口沢周辺 25 h a の薬剤空中散布・穂高権現宮 4 h a の地上薬剤散布を実施し予防対策にも取り組んでおります。

また、平成 26 年度には個人の松を守っていただくための「樹幹注入薬剤購入補助」制度を、平成 27 年度からは「地上散布薬剤購入補助」・「松くい虫被害木伐倒駆除補助」制度を創設し、市民皆さんにより予防対策に取り組んでいただいております。

加えて、市では先ほど市長がお答えした「里山再生計画」に基づき、薪の地産地消率を高める「木質バイオマス利用促進プロジェクト」、安曇野材を建築用材としての利用向上を図る「安曇野材利用促進プロジェクト」、里山を楽しむ知識と技術を学んだり、里山再生に必要な知識を学んだりする「里山学校プロジェクト」、通称「さとぷろ学校」と呼んでおります。

市民一人一人が里山に親しんでもらうための「里山保全・体験学習プロジェクト」、喫緊の課題である松枯れについて皆で検討する「松枯れ対策実践プロジェクト」の五つのプロジェクトを立ち上げ、活動に入っております。

これら五つのプロジェクトにつきましては、里山に関心があり、一緒に活動していただく「里山再生サポーター」を募集して取り組んでおります。

このサポーターにつきましては何時でも参加でき、年齢は問いません

ので、議員さん方にも是非積極的にご参加いただきたいと思います。

議員さんご指摘のとおり、森林の持つ機能は大変重要であります、その機能を十分に発揮させるには、適正な間伐や森林整備が必要です。それには、皆さんが積極的に木材を利用することが間伐促進につながります。

市としましても精一杯取り組んでまいりますので、皆さんも木の良さを認識していただき活用をお願いいたします。

質問区分	観光・産業	議員名	あさわだいじろう 浅輪大二郎議員
発言順(通し番号)	NO : 6	所管課・室名	観光交流促進課

質問事項	安曇野の観光について
具体的な内容 (質問取り事項)	冬や秋のよさを活かした企画・冬の安曇野の風景投稿

【商工観光部長答弁】

あさわ
浅輪議員のご質問にお答えします。

秋から冬にかけての観光誘客イベントといたしましては、11月初旬に開催しております「新そばと食の感謝祭」そして、12月初旬に開催される「灯の祭典・安曇野神竹灯」が代表的なイベントとして、宿泊関係者、商工会や市民の皆さんらが、閑散期の誘客策として積極的に取り組んでいただいております。

新そばと食の感謝祭は、安曇野の食の魅力を高める企画として、新そばはもとより、安曇野の地元食材の魅力を発信し、併せて農林業まつりも開催し、安曇野産の旬の農産物も提供し、観光客の皆さんに安曇野市の食の魅力を存分に味わっていただき、四季を通じて来訪していただく企画も行われています。

また、安曇野の里や国営アルプス安曇野公園においては、空気の澄んだ冬期において公園全体を魅力的なイルミネーションで包む、幻想的なイベントも開催されており、期間中は多くの方にお出でいただいております。

加えて、本市には温泉という観光客のニーズにも対応できることから、特に冬における誘客という観点では、今後、積極的に取り組むべき素材であると再認識しております。先月には新たに安曇野しゃくなげの湯がオープンし、日帰り入浴施設や温泉を楽しむことができる宿泊施設などと、食の魅力や温泉を利用した健康イベント開催など、回遊性を高める取り組みを進めていきたいと考えております。

最近、市内にも多くの外国人に訪れていただくようになりました。訪れていただく外国の皆さんに、安曇野市の伝統的文化や食の体験など本市の恵まれた自然環境を発信するとともに、全国から多くのエントリーをいただく安曇野ハーフマラソンなどのイベントを通じて、四季を通じた安曇野の魅力を発信していきたいと考えております。